

# ECC コンピュータ専門学校 学校関係者評価委員会報告書

学校法人山口学園 ECC コンピュータ専門学校学校関係者評価委員会は、2019年9月5日に「平成30年度自己評価報告書」に基づいて学校関係者評価委員会を実施しましたので報告致します。

2019年9月30日

学校法人 山口学園  
ECC コンピュータ専門学校  
学校関係者評価委員会

開催日時：2019年9月5日（木）17:00～19:00（終了時刻は予定）

場 所：ECCコンピュータ専門学校1号館3階 1309教室

委 員：【関連業界等関係者 「学校評価実施規定12条第1項（1）」】

伊藤 裕一 氏 （インフォームシステム株式会社 取締役CTO） 委員長

野間 伸治 氏 （株式会社アコードセブン 代表取締役）＜欠席＞

郡山 太志 氏 （キャノンITソリューションズ株式会社）

【卒業生 「同第12条第1項（2）」】

谷垣 允哉 氏 （ITエンジニア：コベルソフトウェア株式会社）＜欠席＞

【保護者または地域関係者 「同第12条第1項（3）」】

中上 隆雄 氏 （済美地域社会福祉協議会 会長）

【高等学校関係者 「同第12条第1項（4）」】

貴治 康夫 氏 （立命館高等学校 教員）

【その他校長が必要と認める者 「同第12条第1項（4）」】

土江 彩奈 氏 ＜欠席＞

【同席者】

宇佐見 真也 （ECCコンピュータ専門学校 学校長）

納谷 新治 （ECCコンピュータ専門学校 副校長・教務課責任者）

伊澤 幸徳 （ECCコンピュータ専門学校 教務課副責任者）

池田 宗人 （ECCコンピュータ専門学校 進路指導課責任者）

下西 智也 （ECCコンピュータ専門学校 入試課責任者）

徳田 典 （ECCコンピュータ専門学校 専任教員統括リーダー）

淵崎 静 （ECCコンピュータ専門学校 広報課）

三木 武志 （山口学園 自己点検評価室）

## 重点項目についての評価（宇佐見）

赤字部分…昨年より変更点 変更点部分を中心に担当よりご報告

### ・30年度の課題と解決方策

- 1 継続率の問題 退学者数を抑える 10名に1名が退学、前年より進級率が低下  
学校目標：進級率95%以上（学生の多様化に合わせた仕組みが必要）
- 2 資格・コンテストなどの成果が出てきているものの目標に届いていない点
- 3 第三者評価受審に向けた内部質保証システムが不十分
- 4 ITカレッジのカリキュラム改革 現状改善しているがスピードがまだ遅い
- 5 授業総合満足度の目標を達成できていない点（5点満点中4点以上を目標）徐々に改善している状況
- 6 国際力強化（英会話授業）授業評価が非常に低い 講師と改善しているがまだ達成できていない。

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像（宇佐見）

理念の周知…昨年は学生に伝わっていないことが課題。

- ・学園の理念、学校の教育目標をエレベーターなど学内へ掲示
- ・HANDBOOKやHPにも掲載

育成人材像…コンピュータの学校の為、技術の進化が早い。学校・教員ともに情報察知を意識して実施。

- ・時代のニーズに合わせた動きの対応に未だ課題。

教育活動…国際力の強化をうたいながら学生の満足度を上げるに至っていない

### 質疑応答

#### 質問（貴治）

課題解決の3つ目、学生からの不満足の原因について知りたい

#### 回答（納谷）

英会話の授業（1・2年生週1コマ）と専門科目のミスマッチ、教員と学生の相性（先生が名前を憶えてくれないなど含む）のミスマッチが授業評価を左右している。

英会話の対応：上級クラスはコンピュータ英語を学ぶようにしている。希望者には目に見える成果としてトイックの対策もECC国際外語のカリキュラムを利用できるよう対応

アウトプットの成果としてゲーム分野では、フィンランドへの留学、アメリカへの研修

IT分野では、来年度よりプログラミンとITを学ぶセブ島留学計画

教員とのコミュニケーションをまめにすることで対策（1名を除きうまく動いている状態。）

#### 質問（伊藤）

国際力について、学生の気質的に英会話や英語に対して拒絶反応があると感じる。

可能かどうか別として、コンピュータの授業自体を英語で実施することで学びの目的を英語へシフトすることも検討してはどうか

#### 回答（納谷）

選択科目でオーストラリア教員が専門授業を実施している。

強制するかどうか、対応できる教員の有無が課題

### 意見（貴治）

英語で授業を行うのはやはり

講義は日本語、板書・資料は英語の学校もある

### 質問（伊藤）

教育課程編成委員会の取り組みについて具体的な内容を知りたい。

### 回答（宇佐見）

もともと職業実践専門課程という専門学校が文部科学省からお墨付きをもらえる制度が開始

認定を受けるために企業の方の意見を聞き、連携した教育課程を編成することがポイント

そのために、教育編成委員会（学科ごと）を学校に置き年2回は委員会を実施、企業の方にカリキュラムについて意見をヒアリングし学生を見てもらう。

・現状ある委員会4つ

IT分野の委員会

ゲーム4年制の委員会

ゲームCG3年制の委員会

Webグラフィックの委員会

2月7月ごろに意見をもらう

（学校の学期末の作品発表会で学生の作品を見てもらいその後委員会を実施する流れ）

当初よりカリキュラムを大きく変更している

チーム制作や、資格だけの授業だけでなくモノを作る授業を強化しているのも意見をいただいて実施

### 意見（伊藤）

学校と現場の意見で、乖離することがあるため、専門学校として実社会にフォーカスするには重要

### 質問（貴治）

高校では教育課程を編成する際、中学校で学んだことも踏まえて編成する。

専門学校では高校で学んだことは踏まえられているか？

### 回答（宇佐見）

現状ではあまり考えていない。ゴールからの逆算を行っている。

### 回答（納谷）

初年次のプログラミング教育は、レベル別になっているため最初のテストで経験者はクラス分けて上位に分けられる。カリキュラム自体は一律で、差がつきやすいプログラミングはレベル別で実施。

## **基準2 学校運営（宇佐見）**

昨年に比べて大きな課題はあまりなかった。

2-7-1の情報システムについて、学園本部との連携が不便な部分があるまま改善できていない部分があり、教員からは意見が出てくることもある。要望は出しているものの、変化のスピードが遅い印象が課題

### 基準3 教育活動（納谷）

#### コンテスト入賞が多い1年間

- ・日本ゲーム大賞、U22 プログラミングコンテスト、福岡ゲームコンテスト、学生 CG コンテストなどに入賞
- ・IT カレッジの Web、ネットワークを中心に全国レベルの大会に出場

高等教育の無償化にあたり、情報公開が要求され対応中

- ・今年、学校のディプロマポリシー（人材育成目標）、カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）を HANDBOOK と Web サイトにて情報公開を実施

#### 5段階中 4.0 まで評価を上げる試み

- ・授業アンケートの向上（年2回から4回へ）
- ・相互授業見学を実施

単位認定、必修科目のシラバスを Web サイトへ公開 ※高等教育無償化の条件

### 質疑応答

#### 質問（貴治）

- ①教育活動の成果についてのコンテスト情報等の周知について  
学校からの学生への呼びかけが多いのか、学生からによるものなのか？
- ②優秀な学生に声掛けを集中するのか？
- ③4大ゲームコンテストとは？

#### 回答（納谷）

- ①コンテスト応募担当の教員をつけて教員より学生へ紹介  
授業内で制作している良い作品があるため声掛けを実施。  
学生は、賞金なども学生自身のものになることからモチベーション高く参加してくれる。
- ②現在は全体への呼びかけがメイン。優秀な学生は自ら手を上げるケースが多い。
- ③これ以上に大きいコンテストはなかなかないこともあり、専門学校への参加が集中することもあり本校では4大コンテストとして位置付けている。

#### 質問（郡山）

IT系のコンテストは大学生の参加が多いが

- ①ゲーム系のコンテストには大学生などの参加はあるのか？
- ②全国から集まってくる？

#### 回答（納谷）

- ①ゲームでは大学生の参加はほぼない。今年度日本ゲーム大賞で早稲田大学が決勝まで残っているが初めて。  
要因はカリキュラム。専門学校ではゲーム制作がメインだが、大学生は情報工学や絵描きなどプログラミング CG の表現手段の一つがゲーム制作となるため、専門学校の方が参加しやすい。  
ITは技術の応用がききやすいため理論も強いし、実践的な部分も強い大学が多く参加も多い。  
U22 プログラミングコンテストもゲーム以外は大学や高専生の参加が多い。
- ②ここで上げているものは全国規模のコンテスト

## 質問（伊藤）

### 3点質問

- ①ディプロマポリシーについて Web サイトで見にくい
- ②授業アンケート年 4 回にする意味について、コストがかかりすぎていないか？  
学生へのフィードバックの実施は？
- ③教員は専門学校の設置基準に規定された条件を満たす数を～の点を  
ディプロマポリシーの中身が抽象的すぎるため  
(意見) 学生に対しては噛み砕いた資料などの補足が必要ではと個人的には感じた。

## 回答（納谷）

- ①現在、学園 HP のみの掲載は大阪府からの指摘もあり、今後改善予定
- ②これまでは授業アンケートの年 2 回は期末に実施。  
そのため、意見をリアルタイムで反映できない課題があった。  
問題解決のために中間（授業 5 週目ごろ）に実施、非常に悪い評判があれば個別にヒアリングも実施。  
学生からの言い分と教員からの言い分をヒアリング  
授業が終わってから課題を見つけても対応ができないため姉妹校の 3 校ともに実施を行い一定の効果も感じられる。学生に対しては教員へフィードバックしていることは伝えている。
- ③専門学校設置基準法に合わせて実施している  
(宇佐見) 本校は専任教員が多い専門学校の為問題はまったくない。

## 質問（貴治）

高校では保護者へのアンケート（学校満足度など）  
内容は学校の指導に対する満足度など  
年一回、学生に渡して持ってこさせる。郵送することも。

## 回答（宇佐見）

実施は行っていないが、実際に聞いてみたら意外な思いが聞けるかもしれない。

## **基準 4 学習成果**

就職率について（池田）

就職希望者に対して 244 名中 222 名就職 99.2%

対象外の学生は過去に比べ現在はほぼいない（進学、編入、卒業が精いっぱいなどで 20 名ほどは対象外へ）  
業界就職が増えているためその層へのサポート  
業界就職が難しい学生に対しても就職をサポート

資格について（納谷）

資格一辺倒ではない。

国家資格を中心に抑えている。

IT の 1 年生の基本情報の合格率は全国平均を少し上回るが  
理工学レベルにはいまだ達せていないのが課題

卒業生の社会的評価について（池田）

卒業生とは随時コンタクトをとっている。

ー昨年より校友会を実施 今年度は第3回を11/10に実施を予定

（納谷）

企業へ卒業生の活躍についてのアンケートを実施

就職後卒業生の動向を把握している。

質疑応答

質問（貴治）

就職率、就職先についてお得意先について新規は？

回答（池田）

チャンスをふやすため、日々開拓を実施、開拓企業からの内定も多い

質問（納谷）

IT企業では新卒採用は増えているのか？

回答（郡山）

新卒採用も年々ふえている。今年度より求人を大学のみではなく専門学校への求人を広げている企業が増えている。知り合いの紹介などもするほど人材不足な状態。

業界全体の調子がいいため今後も人材不足が予見される。

（納谷）ゲーム・クリエイティブカレッジの学生もIT企業の待遇の良さにIT業界へ志望を変える学生も増えている。

質問（貴治）

校友会（同窓会）の内容について

卒業生の情報交換は非常に重要

回答（宇佐見）

学校の取り組みや成果の紹介

卒業生同士、学校との関係を作れるように実施

学校では教員不足が切実のため教員募集に関しても少しだけ声掛けも実施

## **基準5 学生支援（伊澤）**

進級率の課題について

年間の退学率5%を目標にするも、昨年度の実績では9%と目標達成には至らず、

休退学理由に関しては様々の為試行錯誤を行っている。

現在、メンタル部分の疾患を抱える学生も増加傾向

- ・学生支援センターと連携を行っている。
- ・今年度より学生サポートチームを編成

スタッフと専任教員と月に2回ほどMTGを実施

## 留学生の増加について

現在、170名の留学生を抱えている（姉妹校の3校内で1番多い状況）

留学生の対応を学校全体でおこなえる体制を構築し始めている状況

## 保護者連携について

保護者会の出席率向上のため、今年度より封筒に「重要文書」など記載することで工夫を実施し  
若干数値は上向きへ

ただし、国際外語のように半数参加などの水準には至らず

## 質疑応答

### 質問（貴治）

3点

- ①休退学者について、経済的な困窮は？
- ②メンタル的な学生について、保護者との連携は？
- ③留学生の国籍について

### 回答（伊澤）

- ①半数近くは学習面の問題、経済的困窮はごく一部
- ②無断欠席に関しては保護者に連絡を実施、連携を強化
- ③留学生は圧倒的にベトナムが多い（69%ほど） 他校含めた留学生の割合も同傾向

### 質問（伊藤）

留学生へのメンタルカウンセラーの常駐はあるか？

学生同士の横連携が大きく、逆に複雑になっている部分は注意が必要

### 回答（納谷）

学園全体で英語と韓国語ができるカウンセラーがいる

ベトナムの学生に関しては、ベトナム人のパートスタッフがいるため対応

### 回答（宇佐見）

170人と人数が年々増加しているため、文化圏の違いを学生に理解してもらうことが非常に難しい状況。

人数の増加により昔より、細かく対応できていない現状

### 意見（伊藤・貴治）

学生からリーダーを作りコミュニティを作り横のつながりを強くすることが重要

### 意見（貴治）

保護者会の参加率の低さに関して、保護者が安心して居るのか、無関心かが重要。

アンケートに関しては紙ベースより Web を活用することも有用。

## 基準6 教育環境（伊澤）

環境面に関して

学生の学習環境の整備のため日々対応

学生・教員とも意見が挙がるのは「ネットワークの不安定さ」現在、改善対応中

防災訓練も消防署と連携の上年 1 回実施

地震発生時のマニュアルも持参徹底を実施

質疑応答

(郡山)

ネットワークについて

トラブル面については解決

学生の要求レベルに足りていない状況について学生の要望への改善策

(宇佐見)

現在の学生の気質上、使えて当たり前、便利で当たり前であり、

特にコンピュータの学生は想定外の使い方も多い現実もある。

今後は、初期投資だけでなく、運用ルールも必要

学生アンケートでも不満も多いため謝罪・説明などを実施。

(伊藤)

セキュリティを確保した上でのネットワークは非常に難しい。

学生に理解してもらうことが難しいのが現実

## 基準7 学生の募集と受け入れ(下西)

募集面に関して

去年からの変更点として、

専門学校版学力の3要素をはかる入試形態を検討している。

ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーから逆算した

アドミッションポリシーを改訂、新設定

質疑応答

質問(郡山)

入学者数は、来年度も増える予定？

ネットワークなどの関係もあり気になる点

回答(下西)

現在増やす努力をしているところ、現在は昨年並みに推移

18歳人口の減や、大学の定員厳格化が落ち着いてくこと、大学の無償化など様々な変化があり、

これまでは対専門学校に対する差別化強化がポイントだったが、

今後は対大学との差別化が重要なポイントとなる。

質問(伊藤)

適正な入試選択をしているについての記載に関して

定員充足以外での希望者を不合格にすることはあるか？



試験的な足切りなどはあるのか？

カレッジごとのアドミッションを策定したら、カレッジごとの入試基準をとることが理想

回答（下西）

基本的にはすべての学生を受け入れたいという思いがあり受け入れているものの、入学を許可しても就職させられないと思われる学生に関しては不合格にすることも過去ある。試験的なものでの足切りはない。面談などで判断。

回答（納谷）

入試改革に合わせて基準を図れる方法が必要  
留学生は日本語や経費支弁などの基準で不合格は多い

質問（貴治）

学生の傾向に関して、コンピュータグラフィックであれば美術に興味があってコンピュータの学校へ来る学生が多いのか？

回答（下西）

本校の場合はゲームが先に理由として挙がる。一番多いのは、消去法でグラフィックに流れる学生が多い。

**基準8 財務（宇佐見）**

財務に関しては学園として順調

**基準9 法令等の遵守（宇佐見）**

昨年同様

**基準10 社会貢献・地域貢献（宇佐見）**

国際力強化を実施

IT 分野の国際交流が弱い点がある

次年度よりセブ島にて語学とIT を混ぜた学生が行きたくなるような留学を調査・視察中  
ゲームに関しては色々な交流がすでにある。

質疑応答

質問（貴治）

セブ島に関してリゾート？

語学留学や情報技術の学びについて教えてほしい。

回答（納谷）

想定している学校はリゾート地ではなく市街地に校舎がある。

日本人が経営をしている2校を視察

- ・午前は英語、午後はプログラミングや、Web デザインなどのコースを実施

学校コンセプト：未経験でも3か月でWeb デザイナーになる、英語力をつける。海外就職をする

本校の学生はすでにプログラミング・Web デザインの技術を持っているため、チーム開発などで3週間ほど英

語の勉強とともに実施することを検討している。

自己評価報告書に関してはここまで

### 事業報告書について（宇佐見）

昨年の事業報告、学園の理事会で提出した報告書となり  
昨年一年間のことが分かる内容となっている。

今後の課題取り組みについて

今年春の入学者は469名入学し約10%在校生数が増加  
現在の在籍者数が1266名（昨年は1132名）  
進級率は90.2%と目標には届いていない。

- 学生の2極化に対する課題
- 進級率の課題（特に下位学生）

独自性の高い差別化（対専門学校、対大学）の課題  
関西NO1の学校を目指す。

### • 学生アンケートについて（納谷）

前期授業アンケートについて

授業見学や、アンケートの取り組みが影響してか、昨年度より全体的に評価が上がっている。

担任満足度に関しては比較的高い水準を保っている（評価点4.18）

設備については下がった

総合満足度は0.1%以上上がっている。

授業アンケートに関して、いい授業悪い授業は昨年より変わらない。

授業の分かりやすさ、学生への対応力、授業の必要性の明確さ、担任の熱意などが評価へ大きく影響している。

フィードバックに関して

全体講師会で分野のベスト3を発表

評価が低い教員へは個別に模擬授業という形で指導を実施

指導をした教員に関しては前期のアンケートで改善が見られた。

授業総合見学について

授業見学でのアンケートで複数名からの指摘は本人も素直に受け入れられている様子。

カレッジリーダーや分野リーダーへの毎月実施

年4回に増やしたことでアンケートのフィードバックも実施（後期も実施し4.0を目指す）

設備に関して目立つのは、自由にPCが使える面や、空調設備、PCスペックの不満はほぼない。

年次が上がるごとに設備が当たり前になる様子。

学校生活の満足度は意外と評価が高い

入試時に目的を持った学生が入学しているため真面目で意識が高い。

2点の評価の中で、授業についていけない、周囲の目を気にするなど心配な面があり、

アンケートは匿名ではないため対応をとる必要がある。

質疑応答

(郡山)

ネットワークに関しては現場を見て近々改善予定

質問 (伊藤)

アンケートの回答率について

答えてくれない学生も最注意学生

回答 (納谷)

アンケート回答率 93.4%

やめる学生、やめそうな傾向のある学生は回答しない傾向があるため注意が必要

今年度の報告 (宇佐見)

①高等教育の無償化の件

2020年4月より、高等教育機関で所得が低い学生が国や地方自治体から補助が出て学費がほぼ免除される制度が開始する。それに向け、7月18日に3校とも申請書を提出、9月末に対象校の結果発表までわからないが現状の部分では問題なく進んでいる。

基準が厳しい(シラバス公開、経営状態、学生定員充足など)

2回目の委員会時に結果をご報告

②第三者評価を今年受ける予定

厳しい第三者評価を受けるため8月末に提出 11月末に訪問調査がある。

在校生や、職員・教員、卒業生などにもヒアリングが実施される。

報告書が出ればすぐに公開(3月頃)次回の学校関係者評価委員会時に間に合えば報告予定

最後に (伊藤)

これから未来に向け学生数の減少などもあるため

この中でも語られている進級率、継続率をより重点項目としてしていただきたい。

(宇佐見)

今年は、学生サポートチームも動き出しているため、取り組みも今後ご報告します。

以上